

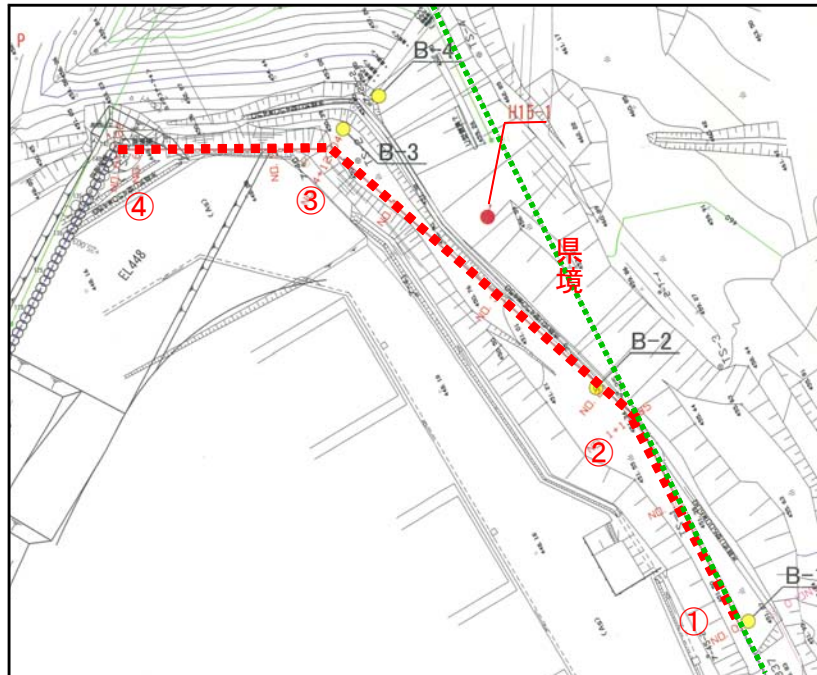
県境部遮水工の進捗状況

1 県境部遮水工に係る調査結果

平成25年10月4日に両県で打ち合わせを行った際に、岩手県から、県境部遮水工に係る調査結果と施工案が提示されました。

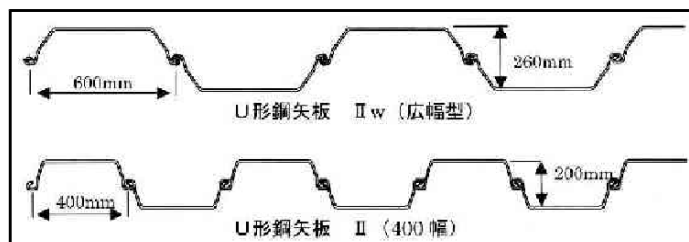
(1) ボーリング調査位置

前回の協議会で報告した岩手県が想定している遮水工設置ラインにおいて、岩手県が平成25年9月までに4か所でボーリング調査を行い、地質や地層の透水性を確認しています。



(2) 工法

施工が容易で汚染拡散防止の確実性が優れていること、既設鋼矢板と連続して施工可能であること、原地盤の攪乱が最小限であることなどの理由から、既設の県境部岩手県遮水工と同様に、U形鋼製矢板を用いた鋼製矢板工法を採用することとしています。



(3) 施工深さ

岩手県が行ったボーリング調査の結果により、地盤の透水性の指標の一つであるルジオン値(Lu)が1.0以下となる深さから、さらに2.5m以上の深さまで鋼製矢板を打設することとしています。

【ルジオン値】地盤が高い水圧の作用下にあるときの水の通しやすさを評価する指標である。通常コンクリートダムの地盤は2ルジオンとされている。

本県としては、これら提示内容については、適当と認められると考えており、念のため、遮水工の施工時に、現場試験により地盤の透水性を確認することで、遮水が適切に行われるよう、岩手県に対し要望しています。

2 進捗状況

岩手県では、遮水工設置ラインを含む県境部遮水工の施工内容を環境省に協議中であり、協議が整い次第、速やかに工事を発注し、今年度内に遮水工を完成することとしています。